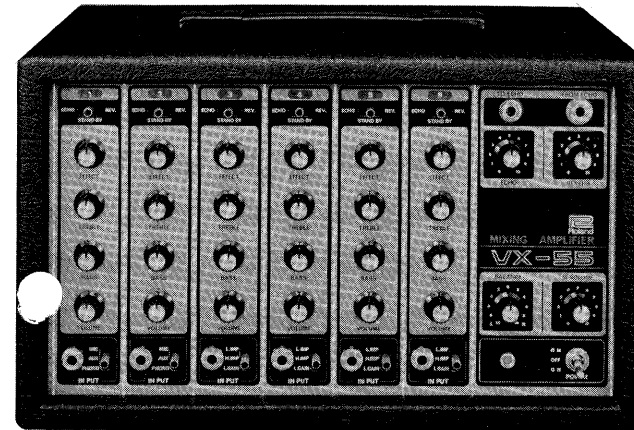


VOCAL AMPLIFIER

VX-55

取扱説明書



このたびは当社製品をお買いあげいただきありがとうございます。
この説明書をよく読んで正しくお使いください。

特長

- リバーブ内蔵、6チャンネル、出力60W(30W+30W)R. M.S.のミキシング・アンプです。
- 第1・2チャンネルに3つのソースを切り替えられるインプット・セレクター、第3～6チャンネルに3段階の入力アッテネーターを装備、レコード・プレイヤー、マイクロフォン、楽器、テーブデッキ、チューナー等のライヴ入力などが接続できます。
- 外部エフェクターに、エコーチェンバー、電子エコー等が接続できます。
- 2チャンネルのアウトプットを装備、メインコントロール部のバランスコントロールによって、左右チャンネルの出力バランスがとれます。
- スピーカーシステム(PSシリーズ)を、設置条件、出力など用途に応じて選べます。

Roland

●本 社 〒559 大阪市住之江区新北島3-7-13 代表 (06)681-8661
 ●東京営業所 〒101 東京都千代田区外神田3-9-7 (03)251-5595
 ●名古屋営業所 〒460 名古屋市中区新栄1-49-18 (052)241-4332
 ●大阪第2営業所 〒530 大阪市北区梅田1-2-2-200大阪駅前第2ビル2F (06)346-0551
 ●シンセサイザースタジオ 〒101 東京都千代田区外神田1-11-6 小倉ビル5F (03)257-1301

各部の名称とはたらき

フロントパネル

スタンバイ・スイッチ

各チャンネルのON/OFFおよび、リバーブ、エコーを選択するスイッチです。

エフェクト・ボリューム

エコーまたはリバーブの深さを調節するツマミです。右(▶)にまわすと増強し、左(◀)にまわすと減衰します。

トーン・コントロール(トレブル、ベース)

高音域(TREBLE)、低音域(BASS)の音質を調節するツマミです。それぞれ右(▶)にまわすと増強し、左(◀)にまわすと減衰します。

ボリューム

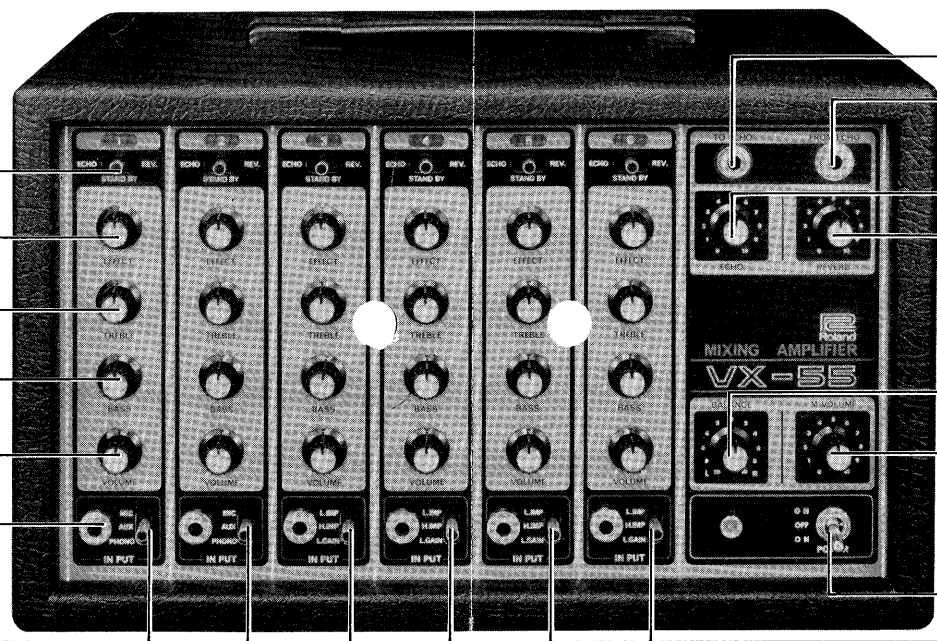
各チャンネルの音量を調節するツマミです。右(▶)にまわすと増強し、左(◀)にまわすと減衰します。

インプット・ジャック

マイク(ローランド・ダイナミック・マイク クロホン DR-180 ¥18,000)、その他の楽器を接続するジャックです。

インプット・セレクター

第1・2チャンネルは3種類のソースを、接続したままで切り替えられます。
MIC : ローインピーダンス、マイクを接続
AUX : テープ・デッキ、チューナー等を背面のジャックに接続
PHONO : レコード・プレイヤーを背面のジャックに接続



フロム・エコー

外部エフェクター等からの出力を接続するジャックです。

トゥー・エコー

エコーチェンバー、電子エコーなどの外部エフェクターの入力に接続するジャックです。

エコー・ボリューム

外部エフェクター(エコー・チェンバー等)への出力レベルを調節し、全体の効果の深さをコントロールします。右(▶)にまわすと増強し、左(◀)にまわすと減衰します。

リバーブ・ボリューム

リバーブ効果の深さを調節するツマミです。右(▶)にまわすと増強し、左(◀)にまわすと減衰します。

バランス・ボリューム

左右スピーカーの音量バランスを調節するツマミです。

メイン・ボリューム

全体の音量を調節するツマミです。右(▶)にまわすと増強し、左(◀)にまわすと減衰します。

電源スイッチ

中央がOFFで、ノブを上下に動かすと電源がはいり、パイロットランプが点灯します。グラウンドスイッチを兼ねていますので、上下どちらか雑音の少ない方でお使いください。

入力アッテネーター

第3~6チャンネルは接続するマイク、楽器などに応じて適切な入力レベルを選ぶことができます。マイクはL.IMPまたはH.IMP、ギター、シンセサイザー、自動リズム等はL.GAINにセットします。

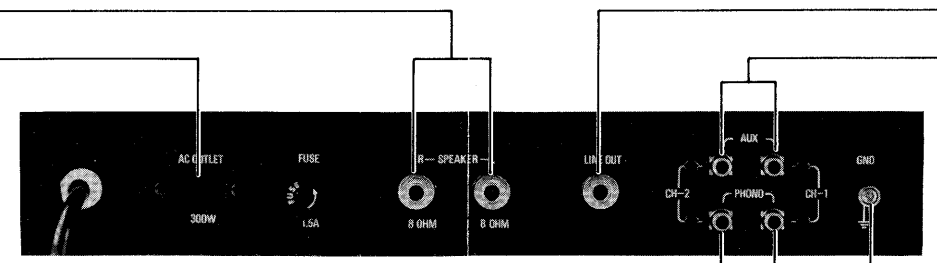
リヤパネル

スピーカー・ジャック

PS-40、PS-60等スピーカーを2本接続できます。

サービスコンセント

レコード・プレイヤー、テープ・デッキ等の電源がとれます。



外部入力(AUX)ジャック

テープ・デッキ、チューナー等を接続するジャックです。

ライン・アウト・ジャック

他のアンプに接続してチャンネルを増設したり、テープ・デッキに接続してレコーディングもできます。

PHONOジャック

レコード・プレイヤーを接続するジャックです。

アース端子

レコード・プレイヤーからのアース線を接続してください。

注意

- 電源コードをコンセントにつなぐ時は、電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。
 - 電源を入れたままで、スピーカー・コードの抜き差しをしないでください。
 - マイク・コードやプレーヤー等のプラグの抜き差し、および電源スイッチのON/OFFはメイン・ボリュームを「0」にしてから行ってください。
 - ※スピーカーに負担をかけ、破損したり、アンプの故障の原因になります。
 - VX-55の近くにネオン、蛍光灯があると雑音が入ることがあります。
 - ※VX-55の位置や置く場所を変える必要があります。
 - 湿気や塵のある所での使用は故障の原因になります。
 - ヒューズ交換の際は必ず当社規定のものをご使用ください。
 - 直射日光のあたる場所はさけて設置してください。
- スピーカーは、インピーダンス 8Ω 以上のものをお使いください。また、スピーカーの許容入力は最低30W必要です。
- 外装レザァが汚れたときは中性液体洗剤で拭きとるか消しゴム等でこするときれいに落ちます。
 - ※シンナー類の使用はさけてください。

主な規格

出力	60WR.M.S.(30W+30W)	8Ω 両ch負荷時
チャンネル数	6	
インプット	ハイ・インピーダンスマイク	4
	ロー・インピーダンスマイク	6
	ローゲイン(AUX)	4
	PHONO	2
	AUX(テープ、チューナー用)	2
	フロム・エコー	1
コントロール	エフェクト・ボリューム、トレブル、ベース、チャンネル・ボリューム	
メイン・コントロール	メイン・ボリューム、バランス、エコー・ボリューム、リバーブ・ボリューム	
切替スイッチ	スタンバイ・スイッチ、インプット・セレクター、入力アッテネーター	
アウトプット	スピーカー出力(8Ω)	2
	ライン・アウト	1
	ツゥー・エコー	1
その他	ACアウトレット	
消費電力	58W	
外形寸法	400(W)×260(H)×275(D)mm	
重量	10kg	

~~本体一式に付属品は含まれません。~~

※規格および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

サービスマンをお呼びになる前に。

正常に動作しない場合は、次の表に従って処置してください。主に使いかたの間違いによる症状を示しましたが、これらの処置をしても直らない場合、または表以外の症状の場合は本社サービスにご相談ください。

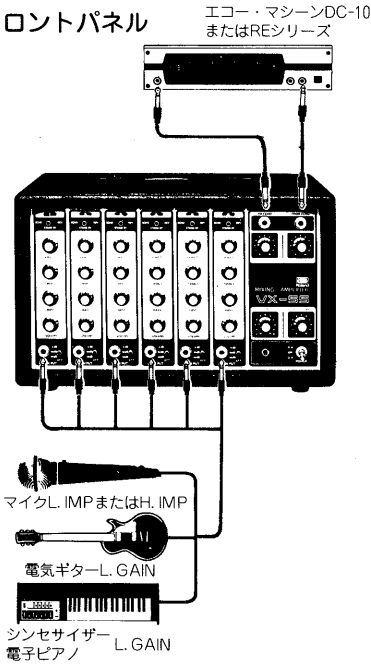
症 状	原 因	処 置
電源スイッチを入れてもパイロットランプがつかず音も出ない。	電源コードの接続不完全。	電源コードを完全に差し込む。
パイロットランプはつくが音が出ない。	●スピーカー・コードの接続不完全。 ●チャンネル・ボリュームとメイン・ボリュームのつまみが下がっている。	●しっかり接続する。 ●適度な音量まで上げる。
片方のスピーカーからしか音が出ない。	●スピーカー・コードの不良または接続不完全。 ●バランスのつまみが左右どちらかにまわっている。	●コードを調べて、しっかり接続する。 ●適度な位置にセットする。
リバーブ(エコー)がかからない	●スタンバイ・スイッチがエコー(リバーブ)になっている。 ●エフェクト・ボリュームとリバーブ(エコー)ボリュームが下がっている。	●リバーブ(エコー)にする。 ●適度な位置まで上げる。
マイク・楽器の音が小さい(大きい)	●入力アッテネーターがマイク・楽器のレベルにあっていない。	●適切な位置にセットする。
プレーヤー、テープ・デッキの音が出ない。	●第1・2チャンネル・ボリュームとメイン・ボリュームが下がっている。 ●スタンバイ・スイッチがOFFになっている。 ●インプット・セレクターがMICになっている。	●適度な位置まで上げる。 ●リバーブまたはエコーにする。 ●PHONOまたはAUXにする。

お使いになる前に

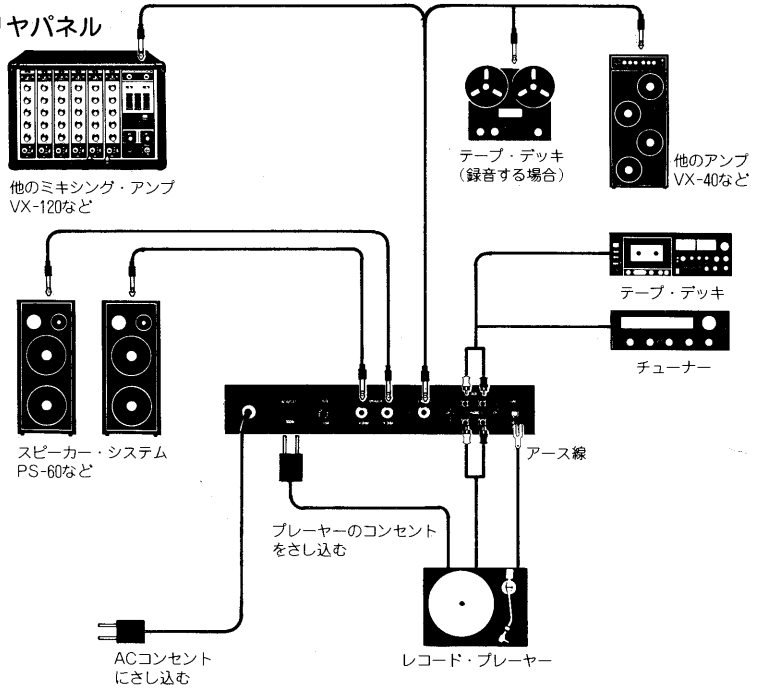
- 電源電圧が90V以下または110Vをこえるところでは、電圧調節器で100Vにしてお使いください。
- 外国で使われる場合は前もってローランドサービスにご相談ください。
- この製品はAC電源を使用していますので多少発熱することがありますが、故障ではありません。

接続のしかた

フロントパネル

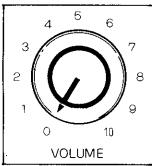
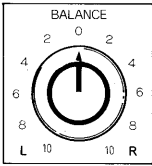


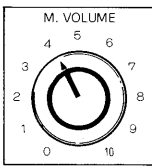


リヤパネル


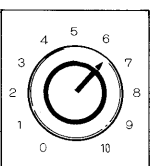


操作方法

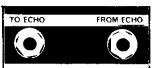

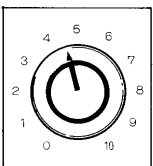
マイク・楽器などをミキシング。

- 1   接続が終わったらすべてのツマミ類を「0」に、スタンバイ・スイッチをOFFにします。ただし、バランスのツマミは中央にセットします。
- 2  電源スイッチをONにします。同時に電源パイロット・ランプが点灯し、音を出せる準備ができました。
- 3  お使いになるチャンネルのスタンバイ・スイッチ(STAND BY)をリバーブ(REV.)またはエコー(ECO)のどちらかにセットします。
※エコー・マシン(DC-10)などを接続している場合はエコーに、内蔵のリバーブを、お使いになる場合はリバーブにセットします。
- 4  マスター・ボリュームと各チャンネル・ボリュームを右(∞)にまわし適度な音量にセットします。
※マスター・ボリュームで音量をさげても音が割れるような場合は、各チャンネル・ボリュームの音量をさげます。マスター・ボリュームで音量をあげても音量が小さいときは、各チャンネル・ボリュームを適度に上げる必要があります。
- 5 音を出しながら、目的の好みに応じて各チャンネルの音質(トレブル・ベース)を調節します。

内蔵リバーブをかける場合。

- 6  接続しているチャンネルのスタンバイ・スイッチ(STAND BY)を、リバーブ(REV.)にセットします。
- 7  チャンネルのエフェクト・ボリュームとリバーブ・ボリュームを適度な位置にセットします。

外部エフェクト(エコー・マシン等)をかける場合。

- 8  エコー・マシン等の入力を入力をTO ECHO(トゥー・エコー)ジャックに、出力をFROM ECHO(フロム・エコー)ジャックにそれぞれ接続します。
- 9  エコーをかけたいチャンネルのスタンバイ・スイッチ(STAND BY)をエコー(ECHO)にセットします。
- 10  チャンネルのエフェクト・ボリュームとエコー・ボリュームを適度な位置にセットします。